

私達の裁判員制度を知ろう！

宮城県仙台第三高等学校 普通科26班

1. 背景と目的

裁判員制度

刑事裁判に国民から選ばれた裁判員が参加する制度。

目的は、1. 国民が司法制度に参加する

2. 国民の価値観を司法に反映させること

令和4年より裁判員に選ばれる年齢が18歳以上に引き下げられたことにより、高校生でも裁判員になる可能性がうまれた。

現状を調べた結果、裁判員に選ばれたが辞退している人は年々 **増加している** ことがわかった。また、出席率も**減少傾向**にあることがわかった。

(下図1,2参照)

そのような現状を、高校生の立場から解決したいと考え、探求を行った。

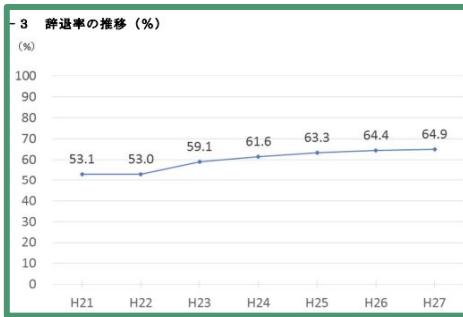


図1

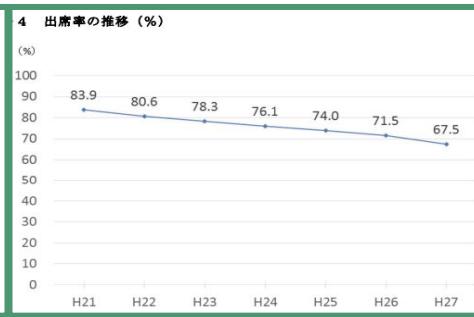


図2

2. 先行研究、考察

先行研究により、裁判員制度を辞退した理由をみた結果、裁判員としての職務を全うできるかどうかに関して、多くの人が不安をいだいており、ハードルが高くなってしまっていることがわかった。

裁判員制度辞退の理由

- 1位 責任を重く感じる
- 2位 正しく行うことができるか不安
- 3位 自信がない
- 4位 遺体写真や証拠写真を見るのが不安
- 5位 冷静に判断できる自信がない

↓ ↓ ↓

私達は裁判員制度及び裁判についての理解度が低いのでは？

そこで…

若者を中心に裁判員制度について理解し、身近に感じてもらうために

(裁判に関する教育の場を設ける)
(主体的に楽しんでもらえるような活動を行う)
⇒ カードゲーム

3. 研究

インターネット上にあった裁判員制度に関するカードゲームの特徴を調べ、カードゲームを作成するうえで、どのような要素が必要かを研究した。

私達の目的

証拠や証言をもとに判決を下すという、裁判員の仕事の一連の流れを体験させる。

裁判員裁判ゲーム

中学生、高校生を対象としてつくられた、刑事事件についての議論を、比較的手軽に行うことのできるカードゲーム。

取り入れたい要素	修正点
ストーリー	発言の評価
凶器や証言のカード	殺人か未遂かの二択
トピックをもとにした話し合い	
最終的な判決を出す	

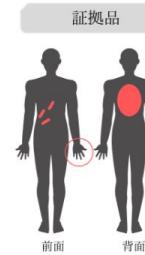
4. 活動結果

4月22日、鶴ヶ谷中学校にて、中学三年生に向けて、実際に自分たちが制作したカードゲームを用いて、出前授業を行った。



身長174cm、体重72kg

被害者は、米山 結城
(よねやま ゆうき)
35歳です。
被害者は妻(米山早苗)、
就学前の娘二人と暮らし
ています。被害者は某有
名大学を卒業し、父親が
生前務めていたIT企業に
就職しました。事件当時
は、部長としてプログラ
ムのデザイン部門を統括
しており、愛妻家として
有名でした。



【米山 結城 診断記録】

犯行時刻は4月22日午前9時以降12時
まで。現在意識不明の重体である。腹
部に3箇所の創傷(刺し傷)が確認で
きます。両手のひらに擦り傷などの複
数のかすり傷が見当たる以外、打撲な
どの外傷には他には確認されていま
せん。また、左手の親指の腹間にわずか
ながら黒い織維が確認されました。こ
ちらについては科捜研にて鑑定調査を
行っている現状です。



冒頭陳述メモ～検察側～



冒頭陳述メモ～弁護側～



証拠品

現場見取図

本ゲームでは実際の裁判員裁判で用いるような冒頭陳述メモの再現版を生徒に見せて特徴を出し合うという活動や、他の事件の判例をもとに取り扱った事件の量刑を話し合いで決めてもらうといった実際の裁判で行うようなことを体験してもらつた。

5. まとめ

出前授業を通じて、中学生に裁判員制度に対して考える機会を与えることができた。これにより、若者の裁判員制度への理解を高めるという我々の目的を達成することができた。

参考文献

1, 2, 3) 裁判員候補者の辞退率上昇・出席率低下の原因分析業務報告書

<https://www.saibanin.courts.go.jp/vc-files/saibanin/file/bunseki-1.pdf>

裁判員裁判ゲーム https://mivurix.sakura.ne.jp/mivurix/saiban_in_junior.html

株式会社NTT経営研究所